

こころま

第 50 号

題字は村上かおりさん書（脳性マヒ1級）水戸市在住



シンボルマークは
川村 礼子さん作
つくば市在住

発行 茨城県肢体不自由児者
編集 父母の会連合会
発行日 令和7年3月30日
事務局 〒310-0851
水戸市千波町1918
セキショウ・ウェルビーイング福祉会館
029-243-3838



ザ・ヒロサワ・シティ会館正面

ナイスハートふれあいフェスティバル2024

水戸市肢体不自由児者父母の会 船木 史子

令和6年12月5日(木)～9日(月)の5日間 水戸市「ザ・ヒロサワ・シティ会館」にて、「ナイスハートふれあいフェスティバル2024」が開催されました。今年度は5年ぶりにコロナ禍以前の規模で実施され、たくさんの人が集いました。

障害児者の作成した絵画・写真・書道・陶芸・工芸など美術展は、個性に溢れた作品459点が所せましと飾ってありました。

障害児者による音楽・ダンス等の発表会は、演技されてる方々もスタッフの皆さんも笑顔で素晴らしかったです。会場観客のみんなも、ピョンピョンと踊り、ハンカチを振り、フィナーレ「あきらめないで」という歌を会場みんなで踊ったのも楽しい思い出となりました。

障害児者が作成した作品の販売や模擬店等、どの作品も素晴らしいものでした。住んでいる地域以外の施設団体の方々と直接話し、関われるのはありがたく励みになりました。

ところで、「ナイスハートふれあいフェスティバル」とは、12月3日～9日までの「障害者週間」に、障害児者の福祉向上と茨城県民の障害児者に対する理解・認識を深めることを目的としたもので、主催は茨城県、茨城県教育委員会、茨城県障害者スポーツ・文化協会、茨城県特別支援教育推進連盟によるもので、当会（茨城県肢体不自由児者父母の会連合会）でも運営協力をさせて頂きました。会場でご協力いただいた当会員の皆様、ありがとうございました。

このような交流イベントを通し、障害児者のみんなが、夢や希望を持って生活し、障害の有無に関わらず誰もがお互いを尊重し認め合える優しい社会になればと願います。



この広報紙は共同募金配分金が使われています。

第57回 全国肢体不自由児者父母の会連合会 全国大会奈良大会

日時 令和6年9月14日(土)～9月15日(日) 会場 なら100年会館 参加者 約570名

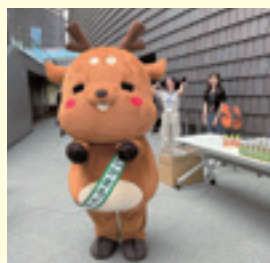
茨城県肢体不自由児者父母の会連合会 会長 御代川 栄 子



開会式典

『住み慣れた地域で自分らしく生きる』～重層的支援体制 誰一人取り残さない社会をめざして～を大会テーマに2日間の大会日程で開催されました。

大会1日目は、特別報告があり令和6年能登半島地震被災地の現状を、石川県肢体不自由児者父母の会連合会の松田郁夫会長から、半年以上が経った、今の被災地や復旧・復興の進み具合の報告がありました。大きな課題となっているのが「人手不足」と、障害者や高齢で支援が必要な人のための支援が届かず、支える人材がいないために、居場所が少なくなり悪循環が起こっている、との現状報告がありました。



奈良市マスコット

特別講演では、株式会社オリィ研究所長 吉藤オリィ氏による～コミュニケーションテクノロジーで人類の孤独を解消する～のテーマで「孤独の解消」を目的として、オリィ氏が開発した分身ロボット「OriHime」を通してALS等の患者さん向けの意思伝達装置「OriHime eye+switch」、全国の子椅子ユーザーに利用されている子椅子アプリ「WheeLog!」、寝たきり

でも働けるカフェ「分身ロボットカフェ」等々を開発されたことを通して、障害者が社会との関わりをもっと積極的にしてほしいとの思いを込めての講演内容でした。



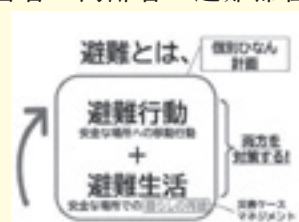
狭川普文長老

記念講演は、華厳宗大本山東大寺長老 狭川普文氏による「奈良時代の医療福祉体制」のテーマで、奈良時代の医療福祉体制は日本独自の「大宝律令」を制定し法治国家の樹立を目指した中で整えられていき、現代における福祉体制に至るまでの歴史的内容であったが、仏教の教えから見た

福祉の歴史の講演は興味深く拝聴しました。(尚、東大寺は昭和30年から子供福祉に関わっています。)

大会2日目は、分科会形式で第一分科会はシンポジウム「住み慣れた地域で自分らしく生きる」、第二分科会はパネルディスカッション「インクルーシブ防災～みんなで助かる防災を考えよう～」で、第二分科会に参加しました。パネリストの一般社団法人福祉防災コミュニティ協会理事 湯井恵美子氏からは、「みんなで助かる!」ための個別避難計画を作成することが重要であることを、東日本大震災のデータを基に話されました。(障害者・高齢者の避難滞りは大変で非常に難しかった。)

私達もインクルーシブ防災の実現に向けて活動していきたいと思いました。



大会決議文

障害者福祉制度はこの20年の間に随分と進んでまいりました。しかし、未だに「住み慣れた地域での共生社会」が実現しているとは言えません。介護人材の不足、社会資源不足、地域間格差、進まない障害理解、合理的配慮の不提供等々に加えて、老障介護という複雑化した課題も表面化しています。

また、令和6年1月の能登半島地震のような大規模自然災害が発生した非常時には、障害者への支援は更なる困難を極めると言わざるを得ません。

今大会では、様々な側面から「一人一人が住み慣れた地域で自分らしく生きられる社会」「誰一人取り残さない社会」を実現するためのヒントになるような講演会やシンポジウムを実施いたしました。

障害者を取り巻く様々な障壁をなくし、障害のある人もない人も誰もが豊かに暮らしていける社会を実現するために、第57回全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会・第58回近畿肢体不自由児者福祉大会奈良大会の名において、次の事項を決議いたします。

- 一、「一人一人が住み慣れた地域で自分らしく生きられる社会」すなわち、すべての国民が障害の有無にかかわらず、お互いに人格と個性を尊重し合い、理解し合いながらともに生きていける社会を実現すること
- 一、障害者支援に携る人材不足の解消に向けて、早急なる処遇改善と地位向上、人材育成を実現すること
- 一、老障介護など障害者とその家族を取り巻く複雑化した問題解決のために、重層的支援体制により横断的・包括的に支援すること
- 一、医療的ケアの必要な人や重複障害のある人に対応できるグループホーム設置を進捗させる体制を国の制度で整えること
- 一、障害児者の自立と社会参加の促進のために、情報通信技術(ICT)の利用を拡大すること
- 一、肢体不自由児者への移動支援は、外出の範囲や目的(通学・通勤)、利用地域に関わりなく、国の介護給付とすること
- 一、肢体不自由児者の社会参加を推進するため、公共機関のバリアフリートイレに、大人のおむつ交換可能なベッドの配置を法令で義務化すること
- 一、すべての市町村における個別避難計画作成の促進と、災害時における障害特性に合った支援や福祉避難所および仮設住宅の充実を図ること

令和6年9月15日

第57回 全国肢体不自由児者父母の会連合会全国大会

第58回 近畿肢体不自由児者福祉大会奈良大会

令和6年度

茨城県肢体不自由児者父母の会連合会 研修会

日 時：令和7年1月18日(土) **会 場：**セキショウ・ウェルビーイング福祉会館

参加者：33名(特別支援学校生徒を含む)

講 師：茨城県ボッチャ協会 副会長 横山 猛 氏 (公)日本パラスポーツ協会指導員 横山 紀子 氏

ボッチャ・ハンドアーチェリー大会研修会を終えて

研修委員会委員長 尾坐原 由香

競技が始まるとコートのあちこちから「やったー!!!」「惜しい!」といった歓声や拍手、笑い声が上がりとても盛り上がっていました。どちらの競技も投げるのが難しくても、補助具を使うことにより自分の力で競技を行うことができます。良いポジションにボールを転がしたり、ピンがボード(的)に命中した時の参加者の笑顔が最高に輝いていました。閉会式では「とっても楽しかった!」と感想を頂き、あらためてスポーツの楽しさを感じることができました。体験研修会をサポートいただいた皆さまにも感謝いたします。



ボッチャ競技風景



ハンドアーチェリー競技風景



研修会参加者

令和6年度 全肢連関東甲信越ブロック地域指導者育成セミナー

日時 令和6年11月8日(金)～11月9日(土) 参加者 40名
会場 東京都豊島区南大塚 福祉財団ビル

密度の濃い時空のセミナー

古河市心身障害児(者)父母の会 大高 滋

全肢連が主催する「令和6年度関ブロ地域指導者育成セミナー」が東京都豊島区南大塚の福祉財団ビルで開催された。



田中健一講師

一日目は、東大生産技術研究所リサーチフェローでNPO法人日本防災士会理事の田中健一氏を講師に迎え、「防災！一瞬の判断と備え」～障害児者と家族の皆様は突発的な自然災害に対処できますか～と題し、実体験に基づいた詳細な資料に従いご講演をいただいた。

特に、ご自身が体験された阪神淡路大震災では、TVが飛んだり本箱がドアを塞ぎ脱出できない状態になったり、文字通り「九死に一生を得る」ような、一瞬にして非日常に変わる恐怖の体験談は、身につまされる思いであり「決して他人事ではない！」と私は背筋がゾッとする思いであった。



講演風景

また、能登半島地震の教訓で福祉避難所の在り方にも言及し、災害時要援護者が避難所生活に必要な紙おむつやストーマ用装具などの消耗器材等の備蓄も必要と問題点を指摘された。

田中講師は、「自助」として家族単位の避難のあり方を最優先に考え、「共助」の核心である「向こう三軒両隣りを大事にすることだ！」と力説された。



厚労省 徳井専門官

他には、厚生労働省の徳井重加根専門官(義肢装具士)から補装具についてのご講演をいただき、さらに5班のグループに分かれて、二日間に渡って「災害」に関するワークショップ

を行い、最後にグループごとの報告をして、「災害発生」という非日常での危機管理意識の理解を深めて、日常の「備え」に対する問題を参加者で共有できた。

今回のセミナーでは、災害を実体験した密度の濃い講師の言葉により、「災害は、他人事ではない！」という意識が強く感じられ、地域父母の会でも、日常での危機管理や福祉避難所、さらに「共助」について考えていくようにしたいと思った。

令和7年度茨城県社会福祉に関する予算要望

令和7年度茨城県社会福祉に関する政策・予算に対する要望を10月31日に大井川知事宛てに提出した。本会では、5年以上政策・予算各2件を継続要望してきたが、関係機関との調整や予算の制約などで実現してこなかった。令和7年度要望は、他県の制度を参考に下記の2件を重点要望として実施した。

(1)重度の肢体不自由児者(医療的ケアの必要な障害児者を含む)の地域移行に資するグループホームの施設整備の補助について 【新規】

要 望：重度の肢体不自由児者(医療的ケアの必要な障害児者を含む)の自立と地域移行を推進するため、重度の障がいのある人が安心して生活できる居住の場となる重度者向けグループホームの施設及び設備等に対する補助を要望します。

要望額：重度の障害児者向けGHの開設・改修補助：上限1,500万円/年

重度の障害児者向けGHの設備補助：上限100万円/年

(参考：三重県障害者GH緊急整備費補助金、茨城県医療的ケア児施設開設準備支援事業費補助金)

(2)重症心身障害児者の短期入所等に対する補助の実施について 【継続】

要 望：医療的ケアの必要な重症心身障害児者の短期入所サービスや日中一時支援サービスを行う事業所の拡大を図るため、施設等の医療従事者の確保・育成とともに、医療的ケアの必要な在宅の重症心身障害児者について、短期入所で受入れた医療機関及び短期入所事業又は日中一時支援事業で受け入れた福祉施設に対して、県において当該障害児者の受け入れに必要な経費を補助する制度を創設するよう要望します。

要望額：利用者一人当たりの補助基準額

- ・医療型短期入所サービス：5,900円/日 ・福祉型短期入所サービス：6,800円/日
- ・日中一時支援サービス：6,800円/日

(参考：岐阜県在宅医療的ケア児等短期入所等支援事業費補助金)

令和6年度会員加入促進事業の実施結果報告

日時：令和6年11月22日（金）

場所：古河市福祉の森会館

参加者：31名

古河市心身障害児(者)父母の会 大高 滋



開会式（会長挨拶）

令和6年11月22日（金）古河市福祉の森会館で県肢体不自由児者父母の会連合会・古河市父母の会共催のもと、会員加入に資する講演会を開催した。

講師は、明星大学人文学部福祉実践科の吉川かおり教授にお願いし「親にも言えないきょうだいの悩み」と題し、「きょうだい」について考える講演会とした。参加者は31名で古河市父母の会会員はじめ結城市・つくば父母の会、古河市家族会、重身施設Buranoの各代表らにも参加いただいた。



吉川かおり講師

吉川先生は、全育連理事を務められ、また「きょうだい」当事者でもあり、社会福祉法人評議員等のご経験から、支援の現場を詳しく知っておられ、実践に基づいた内容で、分かり



質疑応答風景

やすく流れるようにご講演くださった。

「きょうだい」からの視点では、『本人・親への不満・我慢、結婚や親の高齢化、本人へのケア等を一気に背負う将来への不安を「きょうだい」は持ち続けている。しかしながら、他人には勿論、親にも言えない、解決できない悩みを抱え時間が経っていく…どうしたらいいの?』が悩み。

その悩みの解決・打開方法に答えるべく、同じ境遇のきょうだい同士が集う「きょうだいの会」を結成し支援の輪を広げてはどうか、とご提言を頂いた。具体例として、福岡・筑後きょうだい会の取組みを挙げられ、その活発な活動に勇気づけられた。

閉会後の懇談会の中では、参加者から感想や意見を交換した。「この講演、もっと早く聴きたかった」「確かに先生の仰るとおりだ」と異口同音に共鳴共感した感想・意見が殆どであった。

古河市父母の会、さらに会員の有無にとどまらず、障害種別を越え、地域での「きょうだい」の支援の輪を広げていければ・・・と理想の夢が膨らみ、会員加入の足掛かりにもなると思った

各父母の会でも、是非機会を設けて吉川先生を招致し、会員以外の方とも問題意識を共有して、具体的行動を起こすことにより、父母の会の活性化と会員の拡大に取り組んでいくことを念じてやまない。

島原手延そうめん冬期販売状況報告

8団体からご協力いただきありがとうございました。
今後ともご協力をよろしくお願い致します。

ちゃんぽん・うどん等 (円)			
売上金	支払額	各会への還付額	父母の会収益
A	B	C	A - B - C
941,800	644,290	133,065	164,445

茨城県肢体不自由児者父母の会連合会 令和7年度上期行事予定表

月	日(曜日)	父母の会 肢体協 関係団体等行事
4月	上旬 21日(月)	さわやかレクリエーション事業募集開始 第1回総務委員会 (小研修室A)
5月	中旬～ 14日(水) 26日(月) 27日(火)	茨城県障害者スポーツ大会・各種競技 (笠松運動公園 他) 監事会 (会計監査) (団体会議室) 全肢連通常総会 (東京) 第1回理事会 (小研修室A)
6月	12日(木) 下旬～	定期総会 (大研修室) 夏期めん類販売事業開始
7月	14日(月)	広報委員会 (団体会議室)
8月	2日(土) 18日(月)	第62回関ブロ大会神奈川大会 (横浜市みなとみらい地区) 広報委員会 (団体会議室)
9月	未定 13日(土) 27日(土) 29日(月)	第2回総務委員会 茨城県障害者スポーツ大会 (レクリエーション競技) 第58回全肢連全国大会北海道大会 (札幌市～28日) 広報委員会 (団体会議室)
10月	中旬 未定 下旬	県障害者福祉の集い 全肢連地域指導者育成セミナー (未定) 育てる運動・頒布品発送作業協力

お知らせ

令和7年6月12日(木)に茨城県父母の会連合会定期総会がセキショウ・ウェルビーイング福祉会館(大研修室)にて開催されます。多数の方々のご出席を心よりお待ちしております。

あ 亡 が き

「ひびき」は2000年8月に創刊され、毎年2刊ずつ発行され24年間を経て本号が50号となりました。先輩方の御尽力により、発行が継続出来ましたことに深く感謝いたします。その間には、東日本大震災が発行日直前に起こったり、コロナ禍で編集会議を開くことすら困難な時期など、欠刊の危機が何度か訪れましたが、いろいろな工夫で乗り越えてきました。今年度は関ブロ茨城大会も開催され、前号では久しぶりの対面開催に笑顔で交流した場面を数多く掲載出来ました。これからも会員の皆様のご協力をよろしくお願い致します。

広報委員長 軍司 明美